

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/05 ～2018/09/31)

1. 勉学の状況

到着後、スマホ契約や入居手続きを終えたところでエラスムス学生および交換留学生のための Welcome Week が始まりました。

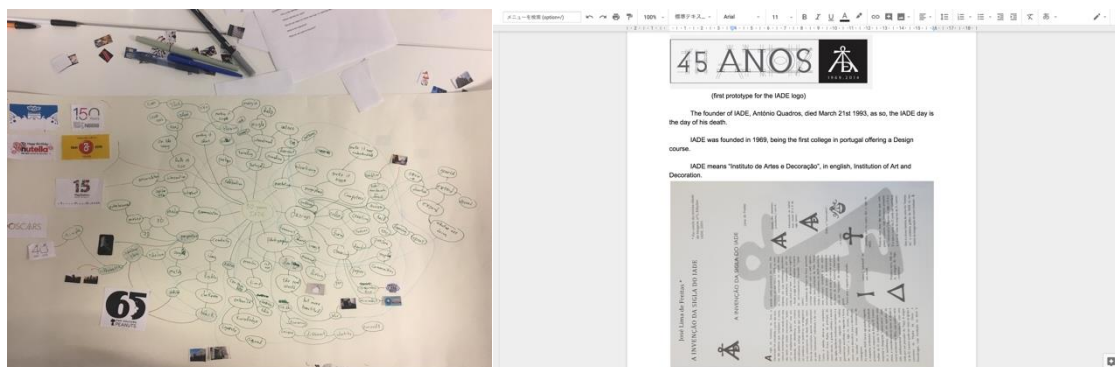
大まかな大学説明・Learning Agreement に関する手続き・リスボンツアーなどを経て多くの友人を作ることができたのですが、一番驚いたことは、日本人学生はおろかアジア人学生が一人もいないということでした。これはかなりラッキーで、英語での会話に順応しやすい上に自分が目立つので、大学に行くとみんなが声をかけてくれます。

夕方や夜になると友人の家に集まり、たわいもない話から価値観や将来に関する深い話まで、酒を飲みながら熱く語り合うことも多く、幅広い意味での学びというものを強く感じています。

授業に関しては、かれこれ3週間留学担当のコーディネーターの元に通いつめ、クラス確認とスケジュール申請を行っているのですが、手続きと情報の曖昧さで授業が確定しそうにありません。一部授業にはすでに参加しているのですが、取りたい授業が取れていないので明日も明後日も通うことになるといった状況です。

現在は個人的に外へ出かけて街のモノのスケッチ、友人のポートレート撮影を兼ねたカメラの勉強、授業のためのリサーチを行っています。

グループワークでは、デンマーク・ポルトガル・日本の異なる国からの学生同士のグループとなった為非常に刺激的です。



2. 生活の状況

入居初日から、宿探しに迷ってしまい近くのホテル前に立っていたフロントマンに助けられました。こちらの人々はみな親切でフレンドリーです。その一方で、決まった時間には物事がスタートしないと、ゆったりとしているところも国民性としてあるようです。

自分が住んでいるサントスというエリアは、観光地まで歩いて5分ほどの海岸沿いの地域で、

多くのスーパーや朝市などもある為、食材を確保するのに困ることはありません。ただし、観光地なので外食と自炊では食費に5倍以上の差はあると思います。

気温は温暖で、電車で30分ほどのカシュカイシュというリゾート地までいき、水温は冷たいものの泳ぐ事ができました。美術館や博物館も多く授業の合間を縫って巡りたいと思っています。また、こちらで一番仲良くなった友人とTake Action! と目標を立てて、現地学生のための伝統部活で、リスボン名物の一つでもある Praxe というものに参加してみました。ポルトガル語はわからないのですが、God Motherなる大学のことをなんでも助けてくれる親を決めました。100人ほどの学生がいるようで、英語を話せる学生もそう出ない学生も自分を覚えていて積極的に話しかけてくれます。今後も大学内外で行動を起こして、ポルトガルという土地をよく知りながら学びに生かしてきたいと思っています。



海外派遣留学プログラム 月間報告書

IADE - LISBON, PORTUGAL

結局こちらでは多く授業を取ることも、受けたいものを履修することも叶わず、火曜全休の生活となりました（公式には火・水・金）。思いの外、暇な訳でもないのが不思議です。授業自体は基礎的なことを学ぶ機会が多く、授業進行もまったりしている為書けることがまだ少ないです。なので基本的に生活面中心での報告をしていきます。



STUDY

授業における進捗

Communication Design, Production Design, Visual Design



友人とのグループワークや教師との関係性は良好と思われましたが、メンバーの一人がスピード感が足りない！と完全にやる気を失くして戦線離脱してしまいました。こちらは皆、自由で自分に正直です。

Visual Design の授業では、決められた制限の中でアイデアを出すことで、自分らしさや自然と人とは異なっていく点に注目しているのが印象的です。Production Design の授業では木工を学びはじめ、本格的に製品の作り方を学んでいける点が非常に自分の学習意図に沿っていて楽しいです。

授業がこんな感じなので同時進行で自分プロジェクトをやっているのですが、テーマも全て決めて取り組むというのは非常に難しいです。

ただ、興味を持ったものに足を運んでみるといい出会いもあるなと感じます。

LIFE

学外生活を通じての学習

Algarve Trip, Fashion Week, MAAT, Web summit and so on



10月の初めには3連休ということで、ポルトガル南部のリゾート地 Algarve へとドライブ旅行をしてきました。こんな休日の過ごし方が現実にあるのだと思うほどゆったりした時間を過ごすことができ、友人との仲もより深まりました。

最近は大学の工房を利用したり、Fashion week へ行ってみたり、Web SUMMIT というトークセッションイベントなど少しずつできることから挑戦を始めています。こちらで授業にまつわる問題が多くあったので、いろいろなことを学ぼうという考えで動いているのですが、感じたことが大きく二つありました。

一つは、学ぶ意図を持ってこちらに来てみたら、能動的に動ける人なら日本でも学べることだった。つまりは、本来の学習目的としていたものでは留学ならではの経験には中々ならないということです。何が得られるかわからない環境へ飛び込むことが自身で考える機会を生み、自分を、とりわけ自分らしさを一番成長させてくれるのではないかと考えるようになりました。

二つ目は、自分の意図ややりたい事を出すと、基礎的なスキルの向上と同時進行でもっと頭を使わなければいけないということです。普通のことですがそれを強く感じています。

綺麗に見せることがデザインの基盤だと考えていたのですが、自分の意図こそが全ての根底にあるべき基盤なのだと教えられました。アイキャッチや3Dの仕上げなど重要かつ最初の接点となる部分は、気力次第で人を真似たり参考にすることで地道に高めることができるかと思うのでコツコツ頑張ります。

夜はほぼ毎日のように、友人と0時過ぎ、ひどい時は5,6時まで飲み明かします。書くべきか悩みましたが、事実なので書きました。

会話の8割はどうしようもない話と私へのスラング講座なのですが、1,2割の熱のこもった価値観むき出しの討論が非常に自分の糧になっていると感じます。傍から見れば、朝まで飲んで昼まで寝てしまう。と怠惰な生活を過ごしていたりするのですが、今日までの留学に何一つ後悔することがないです。

むしろ先を考えるようになる点はこちらで成長できることかもしれません。

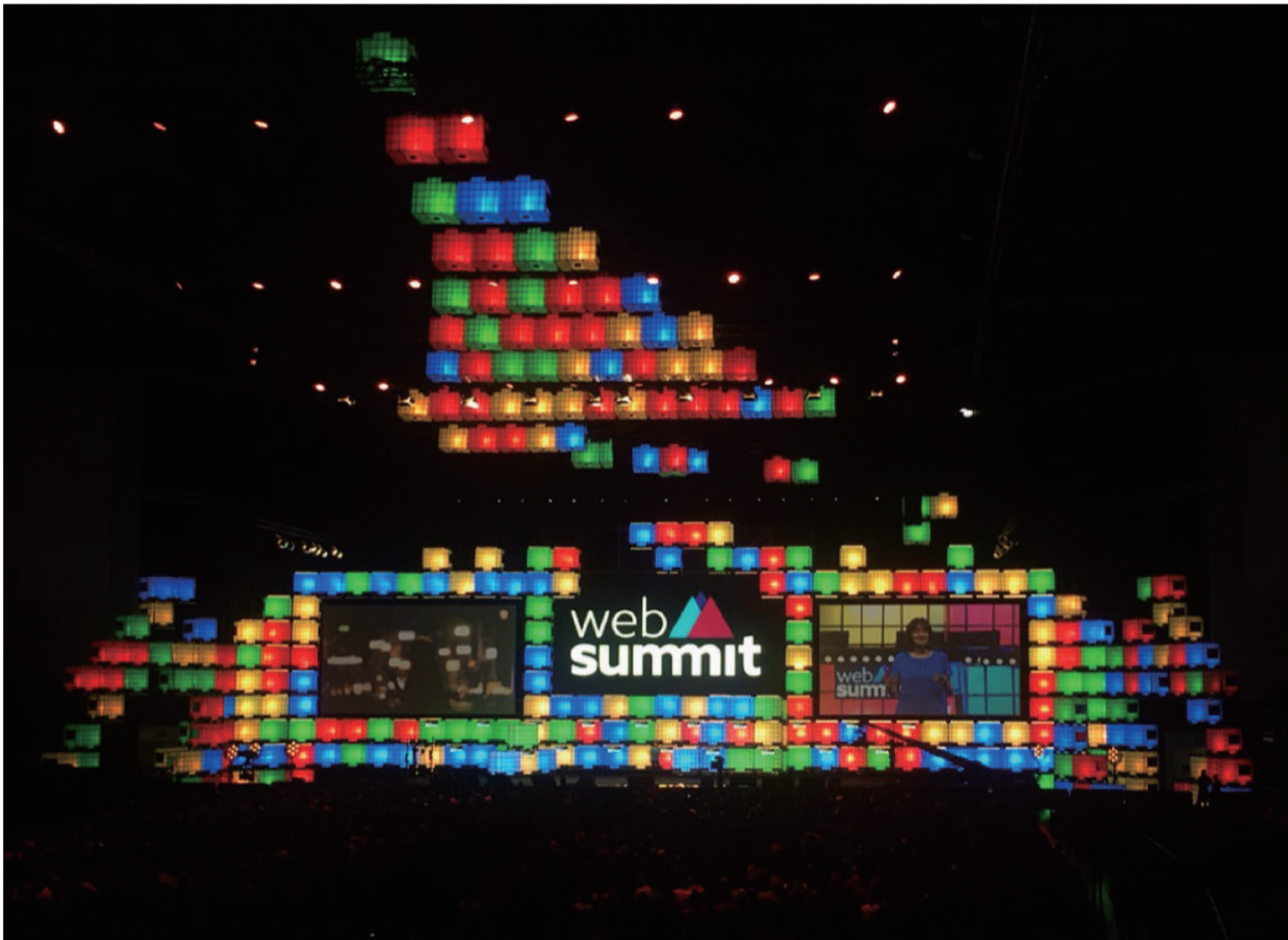
自分にしかできないことが未だわかりませんが、引き続きどんなことにも積極的に、好奇心を持って取り組んでいきたいと思います。

あと、急に冷え込んで来たのでフリーマーケットで服を買いました。とても気に入ってます。

WEB SUMMIT

Tamar Yehoshua, VP Product Management, Google のプレゼンテーション

Topic: Earning user trust



11.6(火)は授業のない日だったので、友人の誘いで web summit という世界最大級のテックカンファレンスに参加してきました。このイベントは昨年もリスボンで開かれていたようで、今月ポルトガル政府が大金を出して向こう10年はweb summit がリスボンに留まるという契約をしていたようです。€1000も本来かかるというイベントですが学生はたったの€5でメインステージで見ることができるといことで若い世代の特権をしっかりと使いました。99.5% OFFというとんでもない割引には驚きましたが、思えば学生は無料になる施設も多く、リスボンでは政府や市の学生に対する優遇が非常に多いように感じます。何と言ってもこのイベントの魅力はスタートアップ企業や世界的な大企業のCEO, Co-founder, President のトークセッションやプレゼンテーション、そして彼らの見据えている未来構想が聞けるという点です。

上の写真にあるようにGoogleからはVP(Vice President) Product Managementが来ていたり、SAMSUNG社長のYoung ShonのAIに関する未来予測と会社の方針を聞くことができたりと、朝10時から夕方5時までぎっすり密度の濃い時間が得られます。

正直自分は聞き取ることに全神経を集中させていてそれどころではありませんでしたが、プレゼンテーションの仕方も同時に学ぶことができると思います。授業がなければ明日明後日も行きたかった・・・



branca show room, MODA Lisboa, MAAT

海外派遣留学プログラム 月間報告書

IADE - LISBON, PORTUGAL

前半テーマのプレゼンテーション、次セメスターのためのアメリカ VISA 申請など少し慌ただしくする中で 11 月が過ぎました。また、雨季とはこんなにも天候が不安定なのかと悩まされています。環境への慣れと気候の変化にモチベーションが揺さぶられた 1 ヶ月でした。リスボンはとても小さい街で、大きいひとつのコミュニティに属している感覚です。



STUDY

授業における進捗

Communication Design, Production Design, Visual Design



グループワーク後半にあたって、ポルトガルの学生は離脱、先月の報告にも挙げた戦線離脱の青年が早くも完全燃焼といった具合で“THE 逆境”な展開です。持ち上げたり、鼓舞したり、グループワークとして前進させることの難しさを痛いほど感じています。こればかりは中々にきついです。Visual Design の授業では、次ページに載せる MAP のデザインを順調に進めて最終プレゼンは高評価でした。現在はスクリーンプリントでステッカーを製作中です。

Production Design の授業では改めて実製作を通して構造の成り立ち、細部の設計を行いました。イメージでしかモノを考えていなかったツケが回って中々上手くいかず、自分が学びたかった事に向き合えています。残りの 1 ヶ月の中でどれだけの実製作を行っていけるかが重要になってくるかなと思います。

LIFE

学外生活を通じての学習

Algarve Trip, Fashion Week, MAAT, Web summit and so on



どこもすっかりクリスマスモードで、街中のイルミネーションはとても綺麗で寒くても気持ちは高まります。12月の初日はポルトガルの祝日だったので、クリスマスマーケットは家族連れで混雑していました。小さい子供たちが観覧車やスケートや滑り台で楽しんでいる様子は微笑ましく心温まります。少し家族が恋しくなりました。

今月は行動力が、継続的ではなく突発的にドカンとくる一ヶ月でした。急に遠くへ行きたくなって、バスを調べて1時間後には違う街へ向かっていたり、大学外のWSを知って急遽参加しにいったり自分のスイッチが制御できていなかった感覚でした。

学外WSというのは、先月の報告書に載せたWeb SummitやAltice, MEOなど現地の大企業との提携があるENTER Altice Labsという施設で開かれたものでした。アイデアを持ち寄り、グループでWebアプリを作成するという内容だったのですが、現役デザイナーや現地バーの経営者など、実際に働いている人たちと過ごす1日は作るものに対する現実味がいつもとは違うように感じられました。自分が一緒にグループを組んだ二人はドイツ出身の姉妹で、作ったモノを通じてスタートアップを実際に始める構想があるようで、今後も関わる機会がありそうです。

デンマークの友人も話していたのですが、企業を立ち上げることが日本よりもずっと容易かつ寛容であるようで働くことに対する意識や選択肢が大きく異なることを意識させられました。

最近はやることが多く、皆と飲む機会は減りましたが新たな人との出会いがその分ありました。学内ではアナログプリントの工房を担当する方とクラスのプロジェクトを個人的に発展させる上で親しくなりました。彼のプロジェクトへの参加したり、イベントへの招待をしてもらったりと多くのことを経験させてもらっています。何かを自分で始めると新しいことが連鎖的に始まるという実感は、律する力の弱い自分には大きな利益でした。12月はポルトへ行き、オーケストラコンサートを見に行く予定に加え、フィンランドの友人宅を訪ねて年越し予定です。やらなければいけないことは多いですが同時に楽しみなことが多く充実しています。

次セメスターのアメリカ留学の為に準備を急ぎます。行き当たりばったりの癖が治らないどころか、その場の緊張感を楽しめるようになってきています。よくない。

MAP DESIGN

Visual design course の最終提案

Theme: IADE ANOS 50



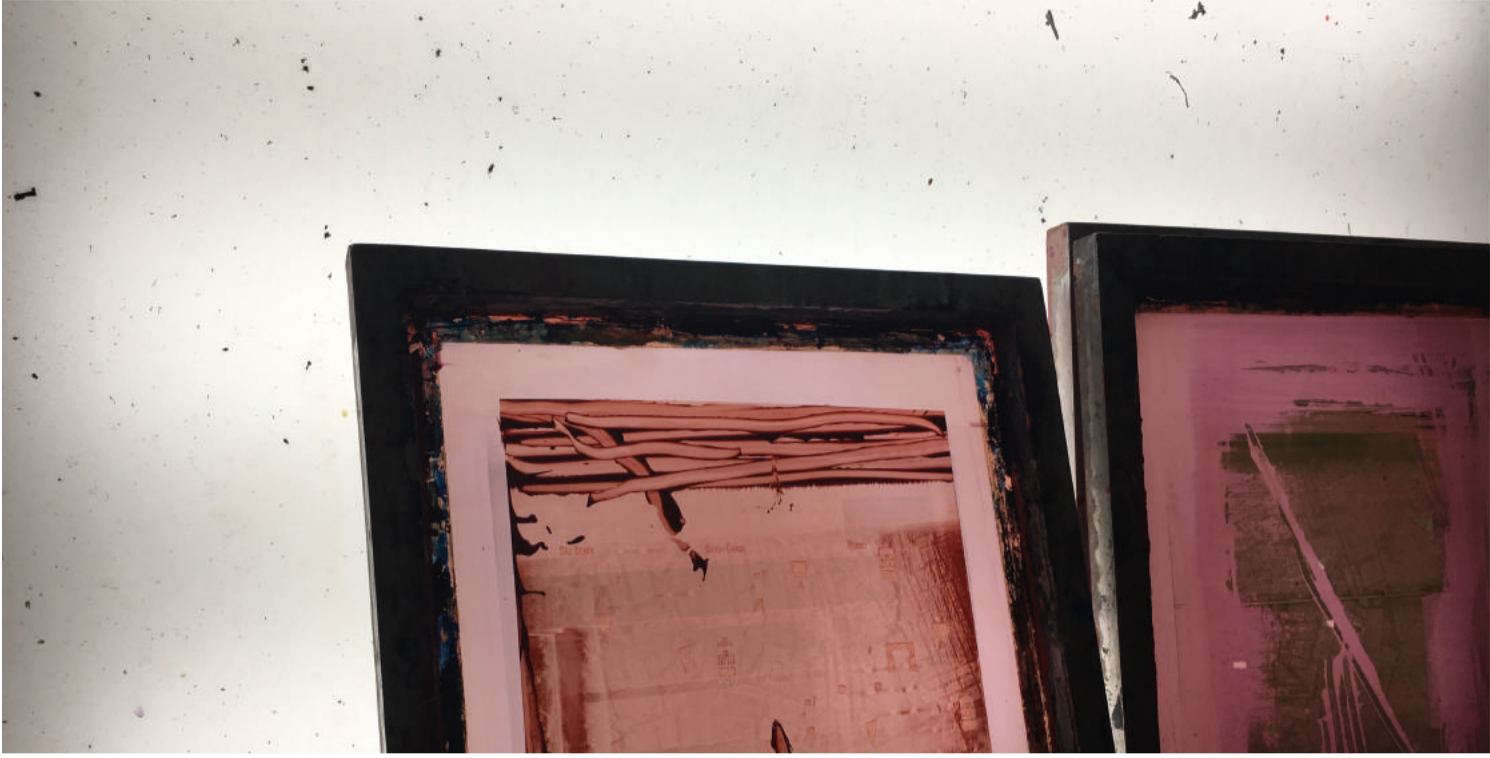
基本的には授業に参加して、毎授業コメントをちょっと貰う程度なのです。いいねいいね！続けちゃって。と特に改善のコメントが得られないのは中々辛かったのですが、その分プロトタイプしてみたり自分から視野を授業外へと広げるきっかけになった点では大きな進歩と発見だったのかなと前向きに捉えています。

自分のやりたいようにやりなさいと制限が何もないクラスであるが故に、皆それぞれ自分の得意な領域へ持ち込んで非常に刺激があります。次回の授業も半分は他の学生のプレゼンなので楽しみです。

提案した内容はいたってシンプルで、ルビンの壺のような図と地の認識の観点から IADE のロゴを分解し、MAP 要素として再構築しようというものです。このコンセプトを主軸としながら、どのように使うかという点に焦点を置いたことで評価が得られたようでした。

IADE50 周年に当たって。といったテーマではあったのですが、求められていたのは 3 つの建物を MAP に置いてくればいいという程度のものでした。かえって自由すぎて動きにくくなったのは自分だけのようで、こういったところにもデザインワークに対して受け身になっていた自分の癖が出ていたような気がします。

英語である程度無意識にプレゼンができたので、語学もしくは度胸的な成長はできているみたいなのですが、視覚的に伝える力はまだまだ足りていません。また、友達が個人的に持ちかけてきた MAP つくろうプロジェクトは、いつの間にか消えちゃったみたいです。モチベの継続は難しい。



海外派遣留学プログラム 月間報告書

IADE - LISBON, PORTUGAL

課題はファイナルプレゼンテーションだけを残し冬休みに入りました。クリスマスシーズンのポルトガルはいつも以上にとても幸せな空気に満ちています。2018-2019, 意識した時にはすでに年を越していた。そんな慌ただしい1ヶ月、そして苦しい年末でした。ただ一つ、人の優しさを今までで一番感じるこのできた時期でもありました。

No image due to broken phone...

STUDY

授業における進捗

Communication Design, Production Design, Visual Design



完全燃焼した友人は未だそのままですが、以前より少し手伝ってくれるようになりました。個人でやろうと割り切らずグループワークとして辛抱強くやった甲斐を少し感じられました。彼も私もちょっとした成長です。

Visual Design の授業では、引き続き進めていた MAP のスクリーンプリントもステッカーではないものの完成し、大学内で多く評価を得られました。具体的な評価はなく、いいね！というのがひとつこちらのデザインに対する異なる姿勢の現れかなとも感じました。

Production Design の授業では学部 1 年以来、まさかのチェスデザインが再び課されモデリングを久しぶりにしっかりと触れました。

フィンランドの友人のもとを訪れた際にもものづくりの環境を目の当たりにし、ものを形作ることに対して改めて興味を持つことのできた 2018 年の終わりでした。その後すぐに全て吹き飛ばすトラブルがあったのですが。。。

LIFE

学外生活を通じての学習

Trip to Finland, Lost my passport, How to deal with troubles

No image due to broken phone...

何と言っても 12 月はクリスマスと年末のカウントダウンが一番のハイライトです。と言いたいところなのですが、何より一番自分にとって大きかったことはフィンランドでのパスポート紛失でした。

普段パスポートは取り出さない私ですが、お酒規制ゆるゆるのポルトガルとは異なり、バー等に行った際に必ず身分証が必要になるということでチャックがついた胸ポケットのすぐに出せる場所に入れていました。冬のフィンランドは午後 3 時でも薄暗く、街を歩いている時、もしくはお店でカードを取り出した際に落としたのでしよう、家に戻ってからパスポートの紛失に気がつきました。翌日、年末で閉まるお店もありましたが行ったお店全てに電話をかけ、店に足を運び、交番に届いていないか聞きましたがダメでした。

年末に加え週末が重なり、警察は空いておらず電話も繋がらない。これによって紛失届も提出できず非常に悩んだのですが、友人に今できることがないなら仕方ないと年越しのカウントダウンに向けてリフレッシュにサウナへ連れて行ってくれました。

友人のクラスメイトの家で開かれたカウントダウンパーティーは、年越しの時間とともに極寒の屋外へ飛び出し丘に登り、花火を見るというものでした。寒かった。

そして何より、困った時・トラブルに巻き込まれた時は【今すぐにできることのリストアップと迅速なメール・電話・最悪の事態を想定した状況の整理。そしてそれが一通り終わってからは、しっかりとリフレッシュすることが非常に重要】です。これは確実に言える経験談です。

その後はポルトガルのアメリカ大使館に連絡を取りながら、フィンランドのアメリカ大使館・日本大使館を行ったり来たり。ただし、緊急時のパスポート再発行は最短で戸籍謄本を後日郵送の条件の元、コピー提出によって 2,3 日で再発行が可能です。

アメリカビザはパスポート紛失とともにアメリカ大使館へ連絡。その後オンラインフォームの再記入、インタビュー申請先の現地アメリカ大使館へメール。そして予約ページの My dash board から [Expedite] をクリックし、緊急面接日をうまくいけば申請することができます。

海外のアメリカ大使館でなんとかなるくらいなので、日本でならチャチャっとできるはずです。渡航先でどうしいいのかパニックになったら海外留学支援室へ連絡をしてみてください。

おそらくすぐに答えてくれると思います。

海外派遣留学プログラム 月間報告書

University of Cincinnati - Ohio, United States

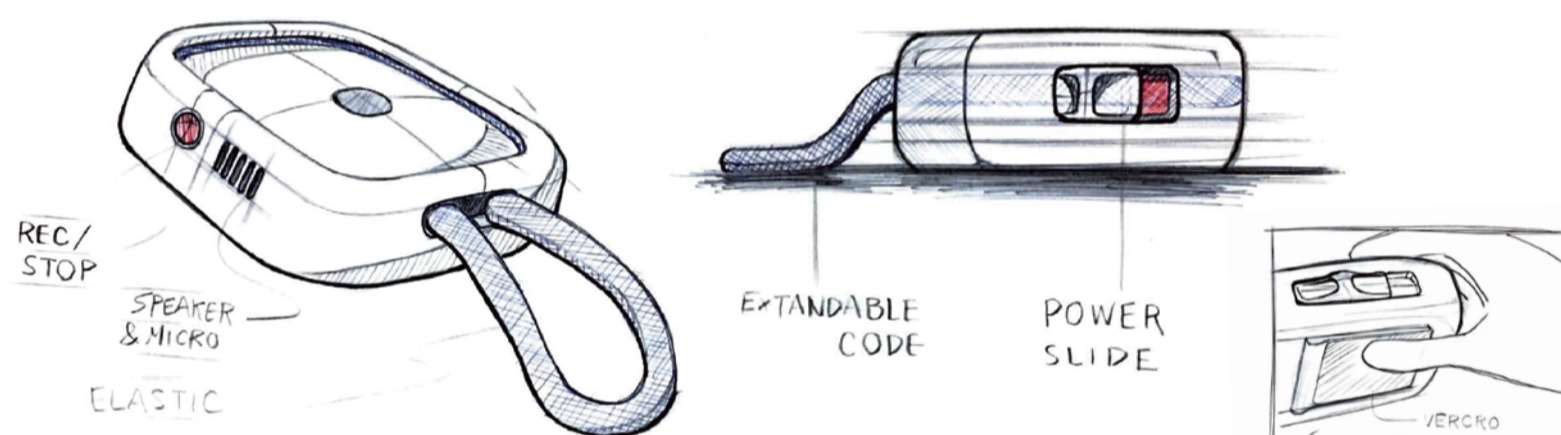
精神的にも肉体的にもガタの来ていた年初め。ゆったりとした国民性のポルトガルから、アメリカデザインにおける即戦力養成所 DAAP。冬でも一枚羽織って深夜にバーへ向かうポルトガルから、あまりの寒さで休校になるアメリカへ。体が強い私でも、あまりに劇的な環境の差に体調を崩したことに納得です。以上 Cincinnati からです。



STUDY

授業における進捗

Product design studio, Product design communication, Making of Things



到着と同時にすぐ手続きを終え、日本人が流暢に話せるピーター先生の全面的なサポートの元、授業を即座に決めました。

「この授業取ることになります。」「この授業は3回目の授業があと5分で始まるよ。」くらいのスピード感です。上のスケッチは Design communication。「寝る・食べる・課題」の生活を送るにも、住む家が決まらず、契約した sublease には延長を繰り返され、2月半ばまで結局家なしで Airbnb ないしは DAAP にひっそりと暮らす地獄生活です。極寒。スツールのひどい寝心地。衣食住の整わない生活の中、受けた授業はスケッチに次ぐスケッチでしたが求めていた課題・授業に喜んで食らいつこうと励みました。

そして体調をがっつりと壊しました。咳が止まらず吐き気を催します。夜は咳で目が覚めトイレへ駆け込みます。なにこれ治んねえ。でした。

LIFE

学外生活を通じての学習

VOLTAGE, CO-OP

No image due to broken phone...

LIFE は正直本当になにも気にしている暇はありませんでした。

まず住む場所に関しては、こちらで住むためには

①Facebook グループに入るために申請を行い承認をうける ②ダイレクトメッセージを送る ③内見のアポイントメントをする ④内見および詳細の確認 ⑤直筆での契約サイン と大まかにはこういった流れになります。

なお、この際考慮しなければならない点は、家賃の支払いは場所によっては紙のチェックで支払わなければなりません。この際は現地銀行口座が必要となるため、UC の TUC なる建物に入っている PNC で Visual wallet を作りましょう。

わかりにくく説明しましたが、要するに【パスポート等の書類を持って PNC という大学構内の銀行に口座を作りに行きましょう】ということです。

ここでもアメリカの口座には SPEND, RESERVE, GROWTH の 3 つがあると混乱してしまいますが、SPEND Account にお金を入れておけば大丈夫です。

次に、家によっては洗濯機使用に毎回コインを入れなければなりません。アメリカでは現金の支払いの場面が多くありません。そこで 25¢(クォーター) コインが必

要となってくるわけですが、5,6 枚を毎度消費して足りるほど巡り合うものではありません。ATM でお金をおろし PNC BANK でクォーターコインに両替してもらいましょう。

レストランの支払いは、欧米よりも文化が色濃く現れており、必ずといっていいほど自分から店員は呼びません。というのも、席に案内された時点でそのウエイターさんが我々からチップをもらう担当になっているからです。食べ終わってお皿を上げてもらったら伝票を持ってきてくれるのですが、そこにカードを挟んで待つ→カードを戻しにくる→新しい紙と一緒にカードを返してくる→カードを取ってその紙にチップの額を記入(平均 18-20% くらい)→帰宅。

チップ記入後は勝手に後でカードから引いてくれるので大丈夫なのですが、そんなことができたなら勝手にチップ 500% で取るとかも可能なのではと不安になったりもしましたが何も問題ないです。

兎に角、アメリカは慣れるにも覚えることがたくさんあってストレスフルです。余裕を持って入国および家探しを行うことをこの報告書では強くお勧めしたいと思います。この事をちゃんと知っておけばよかった。。。

海外派遣留学プログラム 月間報告書

University of Cincinnati - Ohio, United States

留学期間移動時のトラブルにより問題が多かった一ヶ月でした。到着とともに授業は始まり、これまでの生活が遠い昔かのようにめまぐるしい勢いで1週間、1ヶ月が過ぎていきます。アメリカ観光を堪能するのはまだまだ先になりそうです。環境の変化に適応しきれず体調を崩しました、こちらの土地柄に身体を適応させるにはまだ時間がかかるかもしれません。

No image due to broken phone...

STUDY

授業における進捗

Product design studio, Product design communication, Making of Things

No image due to broken phone...

授業選びに苦戦してようやく取り始めることが出来た矢先、体調を崩し授業に遅れをとってしまうという何とも悪い意味で自分らしいところが出てしまったアメリカでの立ち上がり。

授業内容は非常に早いスピードで進んでいくため、ついて行くためには「寝る・食べる・課題」の3つで生活を構成する他ないほどの厳しい環境です。中でも Product design studio は DAAP の中でも有名な Tony Kawanari という先生のもと、椅子のデザインを進めており 2 週間で 300 サムネイルスケッチという課題が出されました。今思えばかわいいほうかなと思うほどですが。アイデア出しやスケッチは苦ではないのですが、千葉大学で怠けてきた構造的な実現性や製造過程を考慮したスケール感・マテリアル決定に苦しんでいます。消費者ニーズと製造者との架け橋であるデザイナーならば出来なければならない基礎が出来ていないと痛感する毎日です。

LIFE

学外生活を通じての学習

VOLTAGE, CO-OP

No image due to broken phone...

ライフスタイルにおいては、JASS と呼ばれる日本人団体へ参加する中で仲良くなった Zhao という日本語が流暢に話せる友人とシェアハウスをはじめました。住み始める上でバタバタしてしまいましたが、やはり住む家があるというのは非常に安心感があって幸せです。

不運なことは次から次へと降りかかってくるもので、風邪をひいたと思えば1ヶ月たった今でも治りません。スマートフォンは壊れ、撮った写真が報告書に載せられません。

CO-OP という、インターンシップに出るために受ける授業にも参加しているのですが、ポートフォリオの審査が通り2社からインターンのインタビューを受けることが出来ました。しかしながら電話の故障により結果の電話を受けられない状況でハラハラしながら毎日が過ぎていきます。

ポートフォリオの基本的な修正や、アメリカにおけるインターンの成り立ちやその仕組み。そして面接の仕方を表面的ですが知ることができ、非常に多くの経験を短い期間ですることが出来ました。

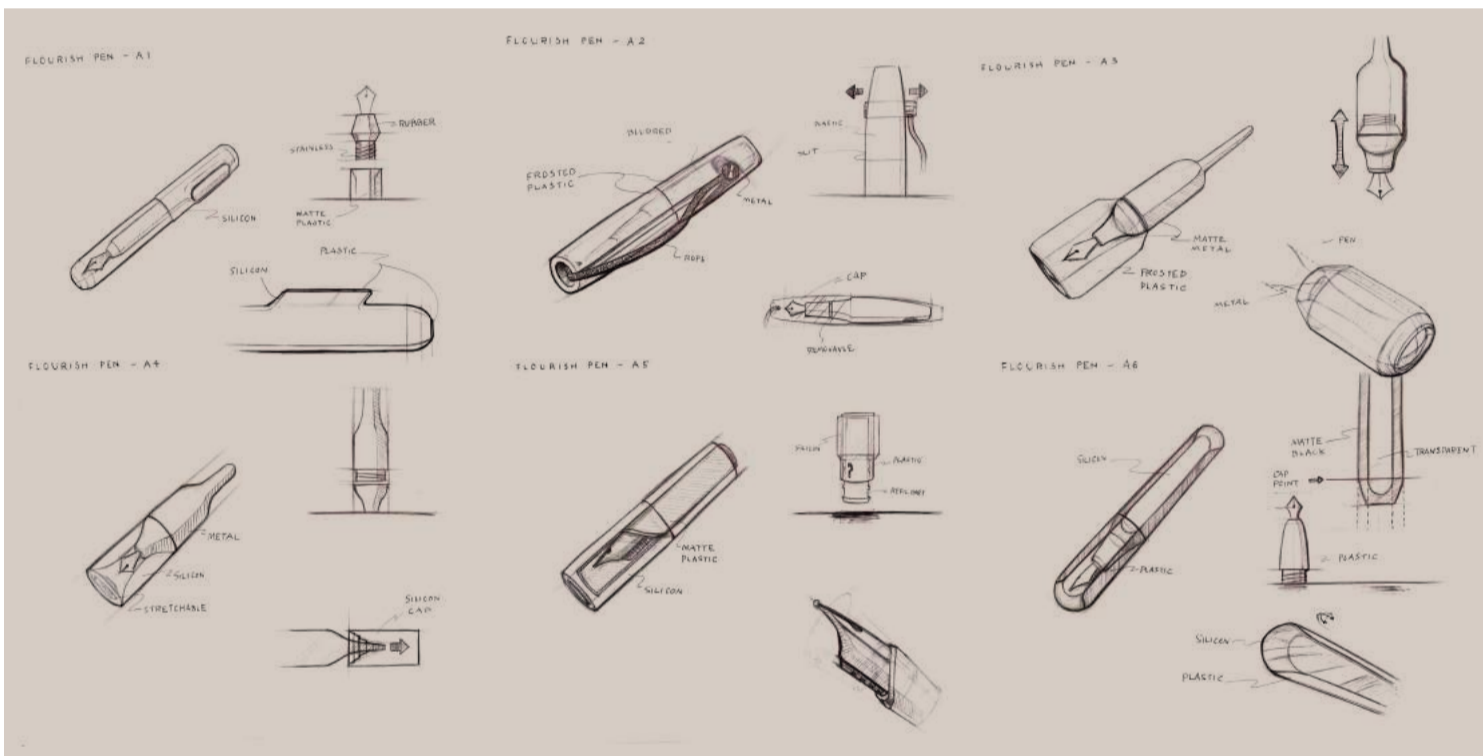
椅子の授業の中では、授業時間外にも椅子の会社で質問する機会や昨年の先輩がデザインした椅子とそのプレゼ

ンを聞くことが出来非常に大きな刺激を受けました。ストレスが非常に多い生活ですが、そのような刺激はいつも自分を奮い立たせてくれるので大切にして行きたいと思っています。

正直なところ、生活に注意するほどの心の余裕がないのが本音ですが何かあるとすれば、アメリカは単位が全く異なるのでとても困ります。一方で大学の設備やサポートが充実しているため、色々なことが大学内で済ませることができこちらの大学はとても便利かと思います。お金が非常にかかるのは問題で、プロトタイプを作るにも何もかもお金がかかる点は千葉大学の方がいいなと思ったりもします。

とにかく、アメリカでの忙しさも海外で日本人に囲まれて暮らすのもストレスが非常に強いのですがそれも留学なのかなと感じます。

自分のすることに集中し、スピード感を持ってタスクをこなしていくこと。英語を向上させ、インターンを取ることをまずは目の前の目標として励んで行きたいと思えます。



海外派遣留学プログラム 月間報告書

University of Cincinnati - Ohio, United States

週末を利用してシカゴで羽伸ばし。インターン面接を再び受け、授業はリスタート。これといって今までの生活と比べ大きな変化はないですが、かえってその事実を焦る1ヶ月だったかもしれません。あまりにも時間の経過が早く、学習して帰りたいことがまだまだ山ほどあるけれど行動を起こしにくい土地柄かなとも実感しています。文化と環境の違い。



STUDY

授業における進捗

Product design studio, Product design communication, Making of Things



今月は、効率・環境・実現性の3点を意識させられました。具体的には、スケジュールを立て自分を無理やり動かすことで常に次を取るべき行動を予測でき、一つのことに没頭しすぎることなく次へと移ることで生まれる「効率」。必要な時にそれに応じた場所へ行けないからこそ、前もって準備を万全に進めることを余儀なくされる「環境」。アイデアをただ拡散するのではなく、全体を見通して考えを深めていくことで見えてくる「実現性」。特に実現性においては、ここまでプロジェクトを進めて来た自分を恨むほどに何も考えられていませんでした。風呂敷を広げてそのまま、言葉にして満足してしまっている適当さ。今から鍛え直すのだと思うと途方に暮れてしまうというか、焦りを感じるというか。とにかく Product Design Studio(Chair Design) をしっかりと走り切りたいと思います。他の授業もそうなのですが、やっぱりイスが一番きついです。

LIFE

学外生活を通じての学習

VOLTAGE, CO-OP



先月の報告書にも書いていたCO-OP(インターンシップ)に動きがあり、ようやくインターン先が決定しました。合計4社のインタビューを経てOwens-Illinoisと呼ばれるビンおよびガラス製品の工業デザインを行なっている会社への採用となりました。併設されている工場プロトタイプをすぐに行うそうで、この留学でもっとも重きを置いていた実現性を目指したデザイン学習という点で大きな成長ができそうです。

同時に、アメリカで働く上での手続きや仕事の取り方を初歩的な点ですが多く学ぶことができたのは大きかったように感じます。インターンの点でいうと、ヨーロッパは友人等のコネクションによるところが大きく、社会的で積極性のある人ほど採用のチャンスがある印象。一方アメリカは現地学生優先・過去の労働経験を中心に採用が決まるのでResumeに力を入れることでインタビューへ繋げるのが重要なという印象です。インタビューはやらないと慣れないです。数撃ちゃ当たります。なので企業インターン・WS経験を記載すると割と食いついてくれるので、そのエピソードを・英語で用意するのがいいかなと思います。

また、はじめに書いたように、シカゴへ2泊3日で旅行に行ってきた。一言でいうと、アメリカの都会だなあ

といった感じです。ヨーロッパのように風情や歴史というようなものはあまり感じませんが、とにかくビルがガラス張りです。ちよくちよくレンガ造りの建物。シカゴはアメリカでも美味しいものが多いと有名らしく、メインイベントは食とアートでした。分厚いピザ・豆・美術館です。

まずは分厚いピザですが、一枚がどデカイので一人分オーダーしないようにしましょう。まあまあお腹すいてるからMサイズ。なんてオーダーするとどえらいことになります。次に豆。とにかくでかくて滑らかなステンレスです。Cloud Gateが正式名称ですが、みんなBeanと呼びます。インスタ属性が強いです。

最後に本命の美術館。The Art Institute of Chicago アメリカ三大美術館の一つに数えられるシカゴ観光の目玉です。予定ではちょっと重要なところを見てから友人に合流の予定だったのですが、昼ごはんも食べる余裕がなのまま気づけば6時間過ぎてしまっていました。それでも感覚的には1/3みれたかなという程度で、デザイン・建築がclosedだったのが残念でしたがとてもよかったのでオススメです。

Divvyと呼ばれるレンタルサイクルがあるのですが、あらはダメです。欠陥だらけです。シカゴに行った際にはあえて利用してみてください。

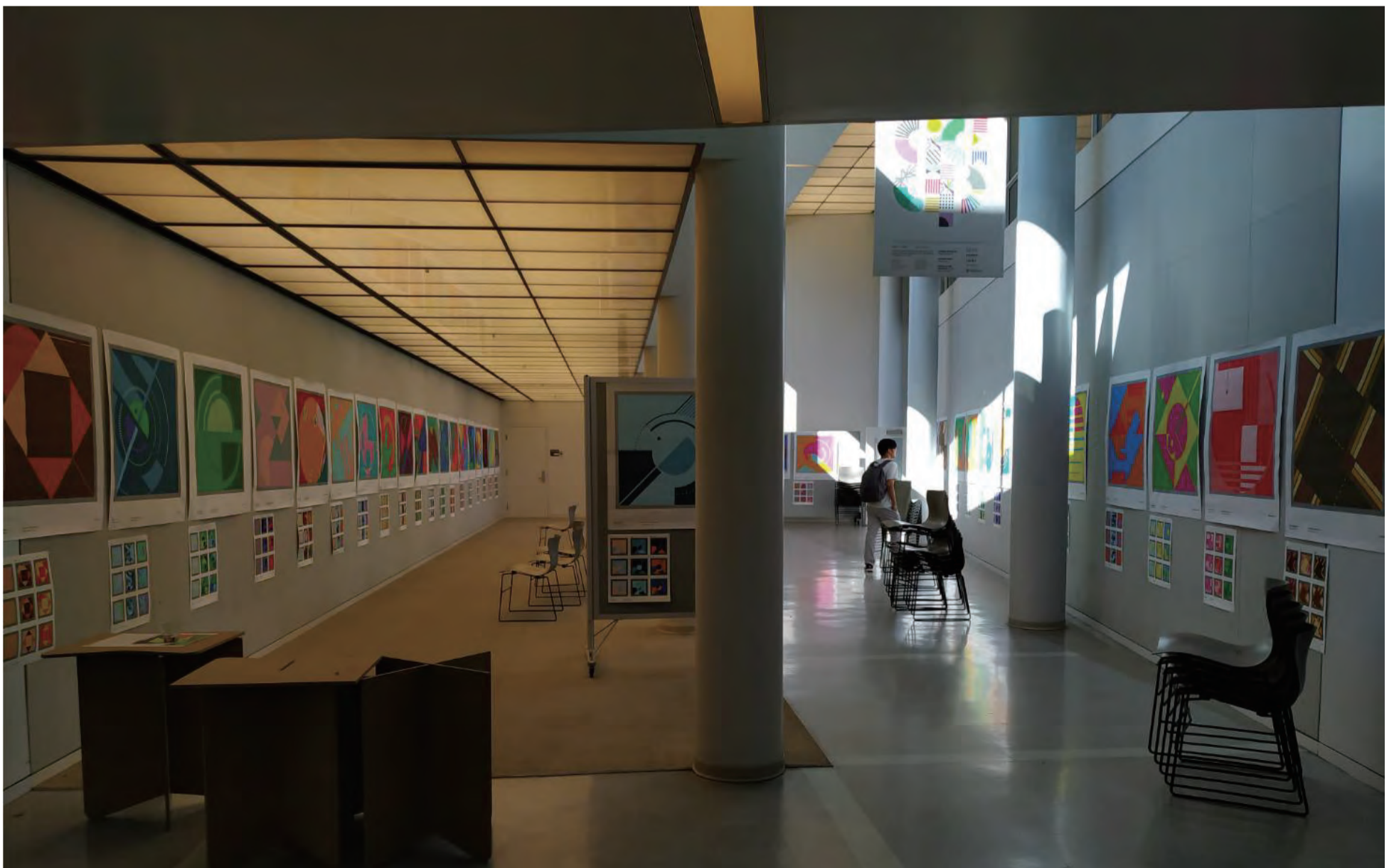


Chicago landscape, Highway view, The Art Institute of Chicago

海外派遣留学プログラム 月間報告書

University of Cincinnati - Ohio, United States

シンシナティでの授業が終わり、遂に CODE プログラム全行程終了。とても短く感じた留学でした。今月はシンシナティでの授業の総括と今後のインターン準備を中心に、留学全体を一度振り返って書いていこうと思います。今思うと文化も学習環境もまるで正反対な二つの地域でした。暮らすにはリスボン・学ぶにはシンシナティ。



STUDY

授業における進捗

Product design studio, Product design communication, Making of Things



イスが終わりました。イスが終わりました。イスが終わりました。終わってよかった。Product Design Studio ほんとに苦しかった。中身・役割・機能ばかりを優先して考えていた自分にはエンジニアリングを考慮したデザインワークがまるできず、全体像をつかみながら計画的に進めていくことの難しさを殊更に痛感しました。ビジネス・デザインに注力している千葉大生にはぜひやってみて欲しい授業スタイルでした。確実に自信と実力に繋がると思うのですが、かかる費用と交通手段が苦しすぎるので自己判断をお願いします。と言うのが私の意見です。これを経験した後だから思うのが、いかに日本はいい環境なのか、ものをつくる上で便利な土地なのかという点でした。帰ってからやりたいことだらけ。

LIFE

学外生活を通じての学習

DOWNTOWN



あまりにも忙しい毎日で、オンもオフもなくなってプライベートの時間が取れない月でした。一度友人の買い物に付き添い、ショッピングモールへここに来て初めて行って来たのですがちょっとした流れでピアスをあけてきました。サインすれば5分程度で開けられるスピード感に惹かれ、特に何も考えず気がつけば。という感覚。これはアメリカいいなあと感じた瞬間でした。

ただ、基本的に自己責任だからと割り切っているアメリカの文化はどこか自由でいて不自由に感じる人が多い。高校生から車登校していたり、大学では大半の学生が一人暮らし。長期のインターンも多く受けて税金や家賃、身の回りの全ての手続きを自身でこなしている20歳になったばかりの学生たちをみると独立のスピードが圧倒的に日本よりも早いと感じます。英語が拙い自分には情報の共有が難しく、様々な点でついていくのが難しい点が多くありました。

DAAP は他の学科よりも全授業の終了が早く、プレゼン後は数日間ゆっくりする期間がありました。

初めて目的もなくダウンタウンに行ったのですが、こんなに近いならもっと行っておけばよかったと思うほど簡単に行けて、川沿いはリラックスするのにいいスポットが多くありました。

生活を楽しむことを忘れかけていたような気がしました。

こちらではレストランや食にまつわるものくらいしか目的になるものがないようだけど、その実、歩き回って土地を覚えるのもけっこう楽しめます。ずっと一つの作業や課題をすると、勉強が本分と錯覚してしまう。どんな環境にいても共通のことではあるけれど、無理やり自分に息抜きの時間をつくる必要があると今になって考えています。室内でスマホをいじる息抜きではなく、散歩して気になる物をみて回ると言う意味での息抜きです。

これからインターンが始まるというのに急に日本が恋しくなってきました。リスボンにいた時同様、日本人のいない環境に身を投じることでこちらの生活により浸り、楽しむことのできるように頑張っていきたいと思います。

忙しく自分の時間が取れなかったので、全体的に内容の薄い報告書になってはいますが今月の報告書はこころで終わります。

あと、アメリカのバスは停車ボタンではなく紐を引きます。



海外派遣留学プログラム 月間報告書

University of Cincinnati - Ohio, United States

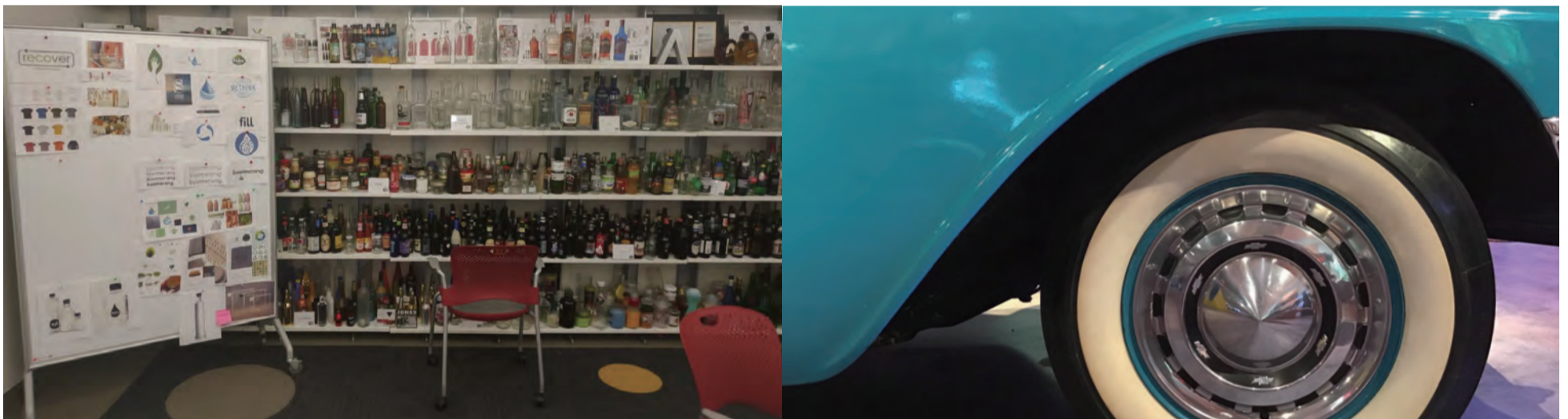
5/9から始まった Owens-Illinois でのインターンシップ。1ヶ月はあっという間にすぎ、仕事にもすぐに慣れました。今月は、仕事環境 / プライベート半々で記録を残そうと思います。曲がりなりにも働いているので、使える写真は多くありませんが。大学に通っていた時よりも心身ともに余裕ができ、見えてこなかったものに目を向けられた大きな1ヶ月でした。



STUDY

インターンを通じた学習

Owens-Illinois Internship, Business Trip at Henry Ford Museum



Owens-Illinois は想像していた職場とは違っていました。もちろんいい意味です。月～木 8-17 の金曜日は午前勤。何があろうとオーバーワークはしないアメリカスタイル。これに慣れてしまうと日本に帰って生きていけるか不安で仕方ありません。

もともとを選んだのは、自分に欠けているエンジニアと深く関わるデザインワークの機会を得られる環境によるところが大きかったのですが、ロゴを含めたブランディングのプロジェクトからのスタートとなりました。あまり役に立たないと思っていたポルトガルでのロゴ・グラフィックの授業が活き、社内コンペに通り無事自分の提案の採用が決まりました。点と点が繋がるような感覚がどこか嬉しく、今まで以上に幅広く知識やスキルを増やしていきたいと思える瞬間でした。ただ学ぶだけでなく、それを実践する機会を得ることが重要なのかもしれません。

LIFE

学外生活を通じての学習

allbirds in Chicago, CCS Student Exhibition

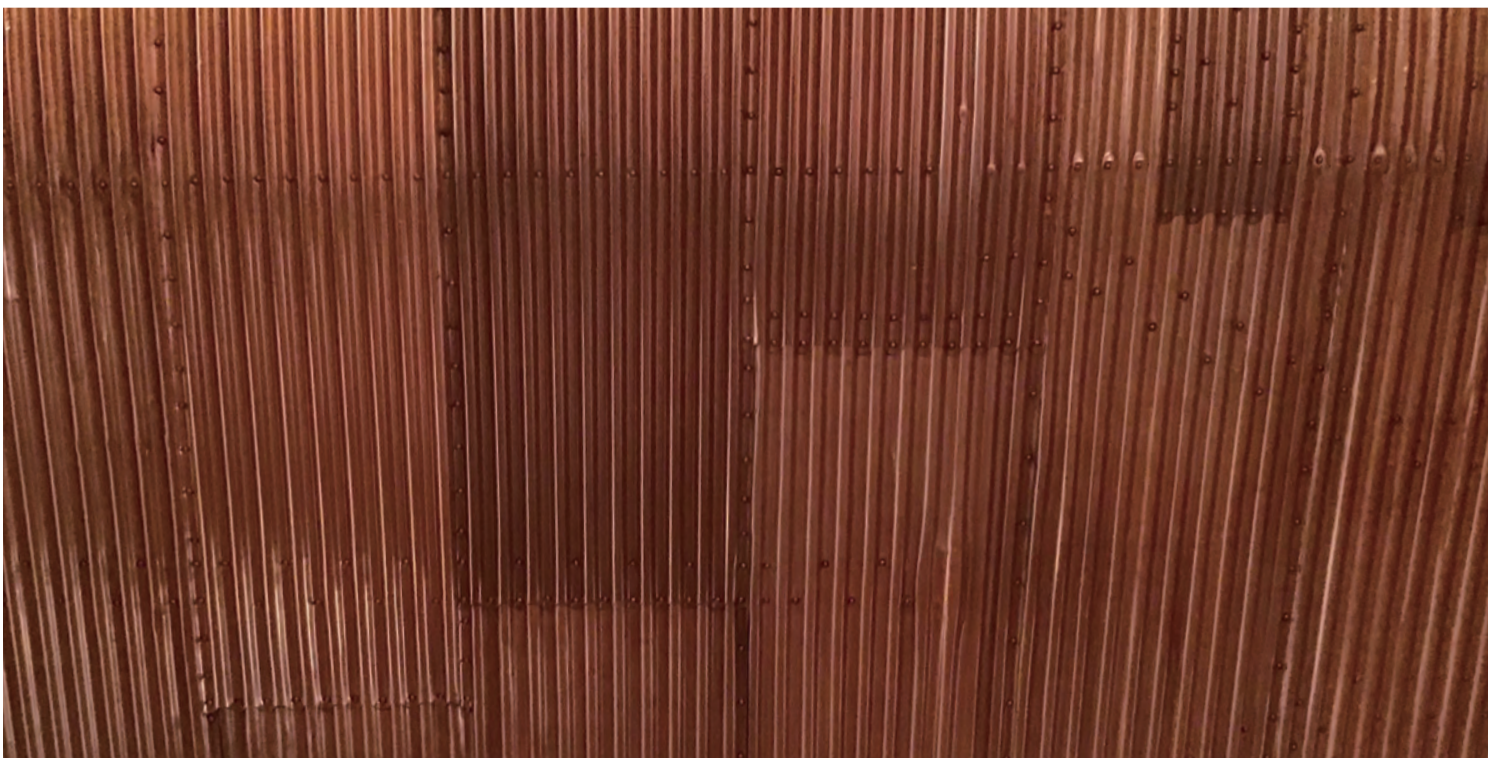


スマホ壊れる・家がない・1ヶ月に及ぶ風邪生活と不運に見まわられた春semesterでしたが、
 今月は家がすぐに決まる・穏やかな職場・ホワイトな労働環境、とすべてうまくことが運び前厄分の悪運が尽きた説も出てまいりました。ハッピー。
 課題に追われていない心の余裕によるところもあるのかもしれない。少し興味のあったアメリカビジネスにまつわる記事をチェックしてみたりもしました。

週末は2度目のシカゴへ。観光要素の強いダウタウンはほどほどに、今回はリンカーンパークへ足を運びました。The Art Institute of Chicagoのある中心部から、コーストサイドを北に歩いて1時間弱。シカゴとは思えないほどの緑と穏やかな町並みが並び、人々が思い思いにリラックスしている様子が印象的なエリアです。
 落ち着いたレストランや雑貨の並ぶとおりには、若い世代で人気のアイスクリーム Jeni's splendid icecream や、世界的にもスタートアップビジネスにおいて名の知れている BONOBOB, WARBY PARKER, all birds 等の有名店が文字通り軒を連ねていました。出展場所だけでなくインテリアレイアウトが洒落ているのは当たりまえ。
 しかし、店舗を試着の場として使う WARBY PARKER のビジネススタイルはどこか異様でありながらも、ワクワ

クする体験を与えてくれます。
 ビジネスにおけるコンセプトブランディングが与える印象の大きさを改めて再認識させられると同時に、デザイン-ビジネス間の結びつきに一層興味を持った滞在でした。
 観光の鉄板・摩天楼のビル群もちろんいいのですが、新しい風を感じたい方はぜひリンカーンパークにも足を運んでみてください。あと、宿はシカゴ郊外で取って電車使いましょう。泊まるのバカ高いです。

村田くんの留学していた CCS (College for Creative Studies) で学期末にあった展示に参加する機会があり、最終提案物のまとめ方や審美的な面での付加価値の与えかたは唖然としてしまうほどに高水準でした。
 1学年40人も学生がいるというトランスポートデザインからは、選ばれた学生しか出展できないという話を耳にしました。学期末に自分の作品を外から来るデザイナー達に見てもらおうというチャンスはこうも学生の意識を変えるのだなと少し。羨ましさや悔しさを感じています。



The Henry Ford Museum, Chicago - Belmont St., Lincoln Park